



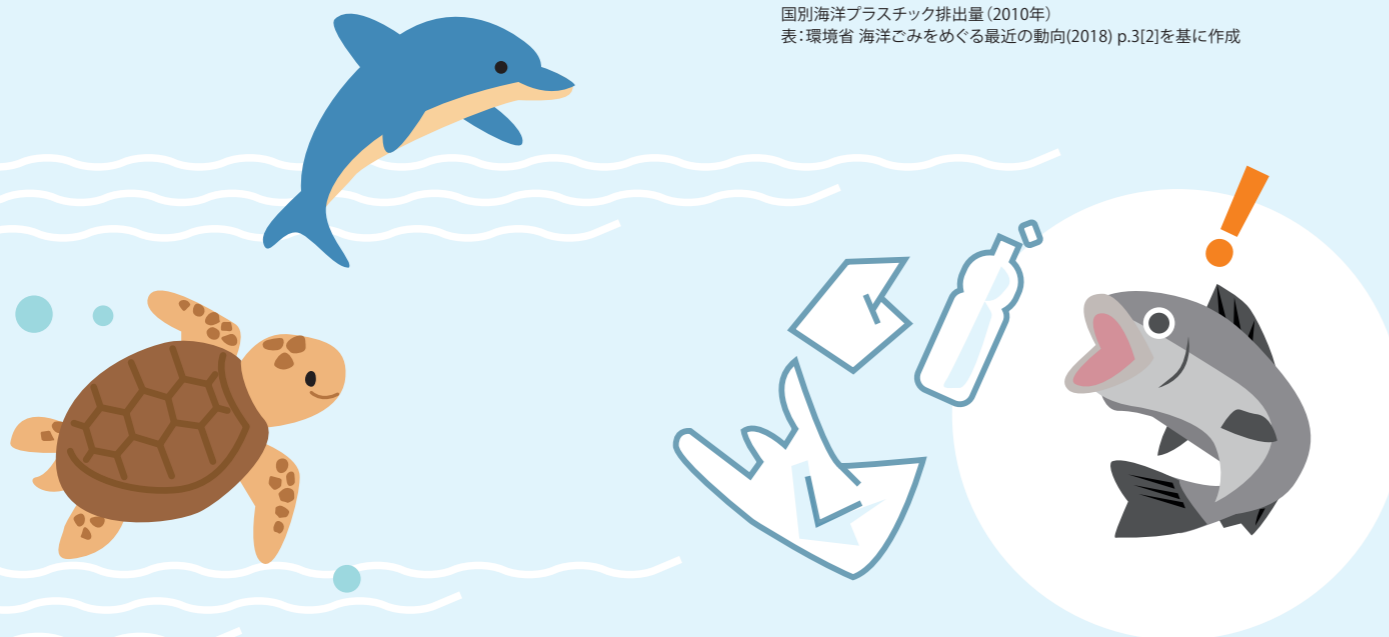
# 海洋プラスチックごみ問題とは

## I. 概要

- 年間500万～1300万トンものプラスチックごみが海に流出
- エサと間違えて食べてしまった海洋生物が誤飲による満腹感の持続、消化器官への損傷により死に至るケースが多い
- ゴーストネット(廃棄漁網)が海洋生物に絡まってしまいうケースも

順位	国名	(万トン/年)
1位	中国	132～353
2位	インドネシア	48～129
3位	フィリピン	28～75
4位	ベトナム	28～73
5位	スリランカ	24～64
20位	アメリカ	4～11
30位	日本	2～6

国別海洋プラスチック排出量(2010年)  
表:環境省 海洋ごみをめぐる最近の動向(2018) p.3[2]を基に作成



## II. 原因

- プラスチックの生産量が増加(過去50年間で20倍に増加)し、それらの半数が使い捨て用のパッケージとして利用されていること
- 生産量全体のわずか9%しかリサイクルされていないこと
- 利用後、適切に処理されなかったプラスチックが海へと流されていること
- プラスチックは自然界の中で、半永久的に完全に分解されることなく存在し続けること

## III. 国内での取り組み

### 行政

- **海洋プラスチックごみ対策アクションプラン** (2019年2月)  
ポイ捨て・不法投棄、非意図的な海洋流出の防止 「全国ごみ不法投棄監視ウィーク」  
陸域での散乱ごみの回収 「海ごみゼロウィーク」  
関係者の連携協働 「プラスチック・スマート」キャンペーン

- **プラスチック資源循環戦略** (2019年5月)

#### 基本原則:「3R+Renewable」

3R …………… リデュース(Reduce) 物を大切に使い、ごみを減らすこと  
 リユース(Reuse) 使える物は、繰り返し使うこと  
 リサイクル(Recycle) ごみ資源として再び利用すること  
 Renewable …… 再生可能資源への代替

回避可能なプラスチックの使用は合理化(Reduce・Reuse)した上で、持続可能性の観点から再生素材や再生資源(紙・バイオプラスチック等)に適切に切り替え(Renewable)、徹底したリサイクルを実施(Recycle)することで、資源循環を促進。

### 企業の取り組み

- **コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社**  
最新のイノベーションを駆使して、100%リサイクル素材「ボトルtoボトル」※1を使用  
※1 使用済みPETボトルを回収・リサイクル処理した上でPETボトルとして再生し、飲料の容器として用いたもの  
目標 2030年までに回収・リサイクル100%を達成
- **グローブライド株式会社**  
ゴーストネットの原因である廃棄物となる漁網を回収、リサイクルした漁網素材を利用し100%リサイクル素材のアパレルアイテムへと生まれ変わらせ、廃棄漁網に新たな価値を生み出す。

## IV. 私たちにできること

- プラスチック問題は、人的要因が主であり、ゴミを分別して捨てるなど、少しの意識から解決への一歩となります。まずは手軽で身近な対策を学び、リデュース、リユース、リサイクル、Renewable(リニューアブル)へ取り組んでいきましょう。

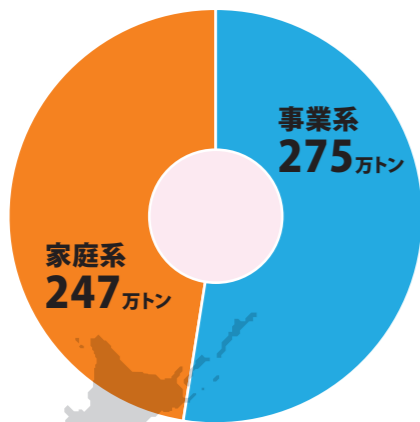


# 食品ロスとは

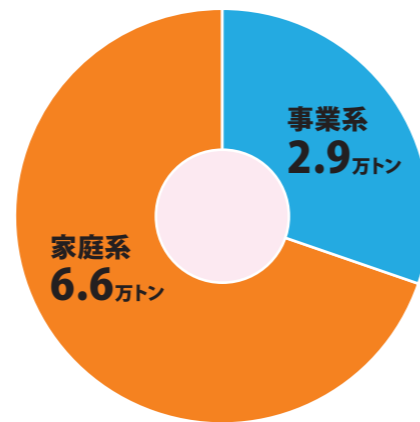
## I. 概要

- 食品ロスとは、本来食べることができるのに関わらず、廃棄されてしまっている食品のことです。2020年度の日本の食品ロスの量は、522万トンで、うち事業系食品ロスの量が275万トン、家庭系食品ロスの量が247万トンです。名古屋市では、2020年度は、事業系2.9万トン、家庭系6.6万トンの量の食品ロスが発生しているとのこと。

日本全体



名古屋市



## II. 原因

- 事業系: 飲食店での売れ残りや食べ残し、輸送過程での商品の損傷など。
- 家庭系: 消費期限切れや買い過ぎ、食べることのできる部分まで除去してしまう過剰除去など。

## III. 食品ロス削減に対する取り組み

- 2015年9月25日に国際連合で採択された「持続可能な開発目標」(SDGs:Sustainable Development Goals)を軸に、2030年までに世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させることを目標とされています。
- 国内では、第4次循環型社会形成推進基本計画(2018年6月19日閣議決定)及び食品リサイクル法の基本方針(2019年7月12日公表)において、家庭系及び事業系の食品ロスを2030年度までに2000年度比で半減するとの目標が定められています。
- 2019年3月31日に閣議決定された食品ロス削減推進法に基づく「食品ロスの削減の推進に関する基本的な方針」においても、これらの削減目標の達成を目指し、総合的に取り組みを推進することとされています。

## IV. 私たちにできること

### フードドライブ

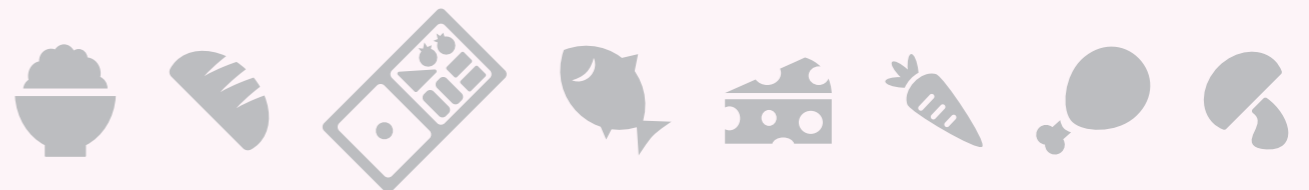
家庭にある手つかずの食品を集め、フードバンク活動団体や地域の福祉施設に寄付する活動です。

### 食品ロスダイアリー

廃棄した期限切れの食品や食べ残しを日記形式でアプリに記録することで、食品ロス削減と食品の節約を目指すものです。

### 食べ残しゼロ協力店の利用

名古屋市内では、食品ロス削減に積極的な飲食店を「食べ残し協力店ーお皿ぴかぴか!ごちそうさま!ー」として登録しています。協力店を利用することで食品ロス削減と市内の飲食店を応援することができます。





# インターネット取引とは

## I. 概要

- **フリマアプリ**  
スマートフォン等を利用して個人が物品を出品し、個人間での売買を可能にするアプリケーション。  
主にメルカリ、ラクマ、ヤフオクなど
- **その他**  
応援消費・シェアリングエコノミーなど  
※応援消費:ふるさと納税などを通して、地域経済の発展を手助けするインターネット取引  
※シェアリングエコノミー:個人等が保有する活用可能なスキル等の資産を、インターネットを介して他の人が利用

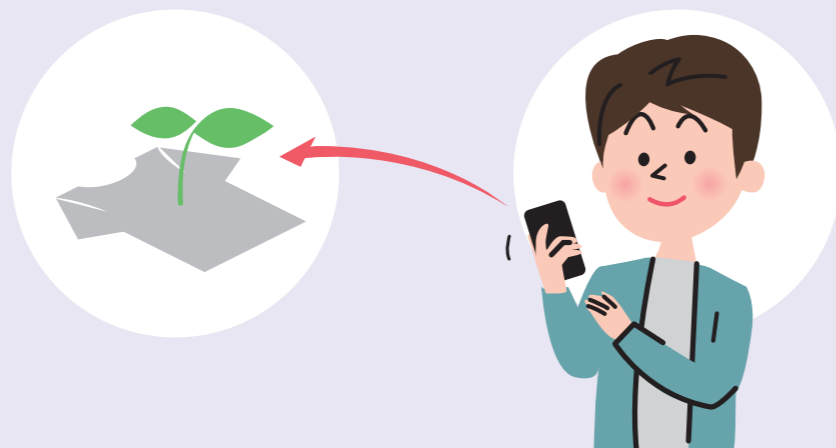


## II. エシカル消費との関係

- フリマアプリを通して、不要品を必要とする人に譲り、ゴミを減らすことで環境への負荷を減らすことが可能

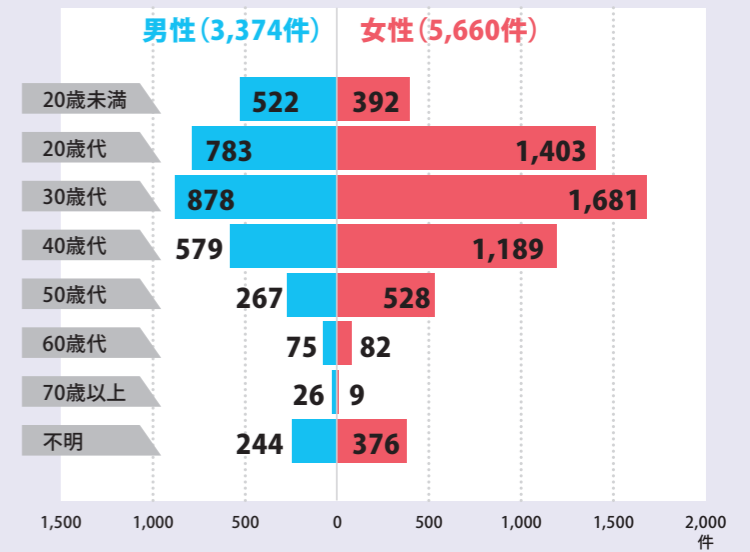
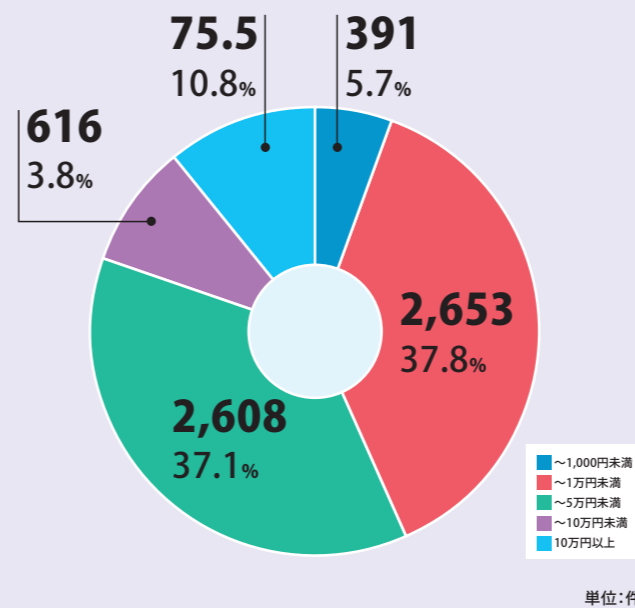


**エシカル消費(環境に配慮した消費)につながります。**



## III. 問題点

- フリマアプリは便利な反面、トラブルも多くなっています。特に、20~30歳の女性のトラブルが目立っています。取引価格で見ると、1万円未満が多く、バックや服の取引でトラブルが多発していることがわかります。
- トラブルの事例:偽物が届く、商品が届かないなど。購入者だけでなく、出品者もトラブルに巻き込まれています。  
→ 例えば、お金が振り込まれないなど。



※国民生活センター報道発表資料「相談急増!フリマサービスでのトラブルにご注意」P9より引用

## IV. 私たちにできること

- フリマアプリや応援消費・シェアリングエコノミーなどのインターネット取引は、誰でも簡単にできるエシカル消費です。不要なものを廃棄せず、インターネット取引を用いて、必要な人に譲ることも検討しましょう。これらを使い、エシカル消費へ繋げていくことは、環境だけでなく自分たちの生活もより良いものへと変えていくことができます。しかし、こうしたメリットの裏にはトラブルなども潜んでいることを忘れず、気を付けてほしいです。

参考: 消費者庁HP、国民生活センターHPなど



# グリーン購入とは

## I. 概要

- 「グリーン購入」とは、ものやサービスを買うときに、必要なものを必要な分だけ買い、価格や品質だけでなく、環境への負荷ができるだけ小さいものを選ぶことをいいます。
- グリーン購入対象商品には、「グリーン購入法適合マーク」が記載されている。ここで、グリーン購入対象商品の一部を紹介します。

### グリーン購入対象商品の具体例

紙類	・印刷・情報用紙 ・トイレットペーパー	・ティッシュペーパー ・包装材
文具・事務用品	・鉛筆 ・ボールペン	・ファイル ・ノート
日用品	・石鹸・洗剤(食器用・洗濯用) ・日用品	・清掃用品 ・ゴミ袋
食品	・加工食品	



## II. 目的

- グリーン購入の目的は、再利用がより活発におこなわれる循環型の社会を作り上げ、現在の環境問題を解決していくこと。

参考：環境省HP、サントリーHP、日産自動車株式会社HP、三菱電機グループHP

## III. 国内での取り組み

- 個人だけでなく、たくさんの法人もグリーン購入を積極的に行っている。ここではその一部を紹介します。

### サントリーグループ

#### 1. 基本的な考え方

持続可能な社会の構築のために、サントリーグループ全体で使用する物品・サービスについて、環境負荷ができるだけ小さい原材料・資材・設備等の購入を目指している。

#### 2. 重用する事項

環境汚染物質などを使用しないことに配慮  
生態系を壊さない資源採取に配慮  
修理・部品交換などにより長期間使用可能  
再使用が可能

### 日産自動車株式会社

#### 1. 基本的な考え方

魅力的な商品やサービスを開発・提供するだけでなく、製品の環境負荷低減を推進していくことでグローバル市場での競争力を高めていくことを推進している。

#### 2. 重用する事項

環境マネジメントの構築運用  
温室効果ガスの排出削減  
大気、水、土壌汚染の防止  
省資源、廃棄物削減 化学物質の管理 生態系の保護

### 三菱電機グループ

#### 1. 基本的な考え方

三菱電機グループは、サプライヤーとのパートナーシップに基づくグリーン調達の推進により、環境に配慮した製品を届けている。調達・生産のつながりであるバリューチェーン全体での環境負荷を継続的に低減し、また、そのためのガバナンスを強化し、大気、大地、水を守り、心と技術で未来へつなぐ持続可能な社会の実現を目指す。

#### 2. 重用する事項

資源の有効活用  
エネルギーの効率利用  
温室効果ガス排出量の削減

## IV. 私たちにできること

- 今回取り上げたグリーン購入は、比較的誰でも簡単に取り組める環境問題対策です。ここでグリーン購入について知った方は積極的に取り組むことはもちろん、知らない人にこれを伝えていくことを意識してほしいと思います。
- 自分だけでなく他人にも意識を促すことでグリーン購入の意識をたくさんの人が持つようになり、それが持続可能な循環型の社会を作り上げることに繋がっていきます。